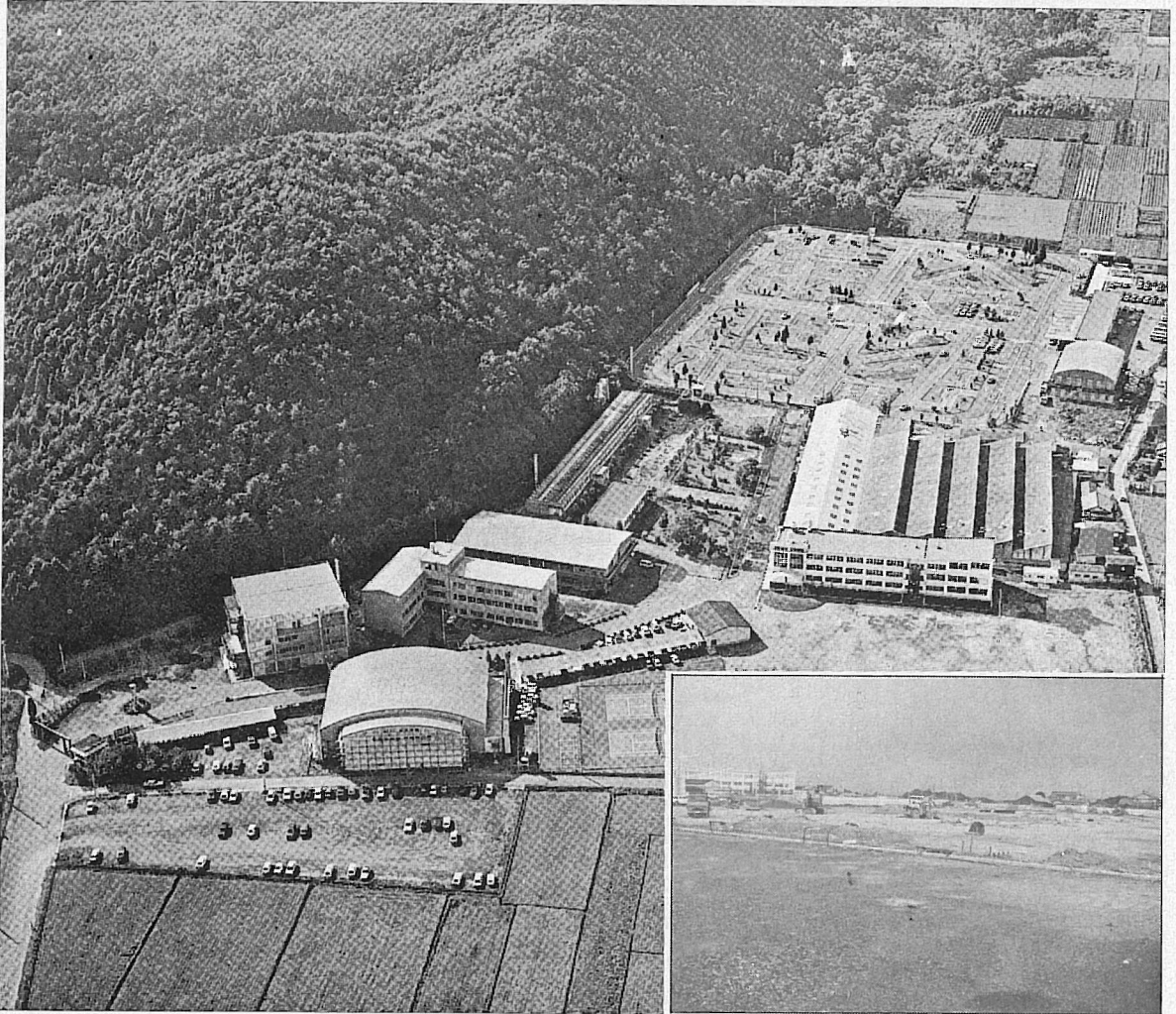


学 友 会

会報

第4号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局
〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深査1301 ☎<0574> 26-7121



新グランド完成間近!!

会報発刊にあたって



中日本自動車短期大学
学友会会長

本 田 紳 基

本年も会報を発刊する時期となりました。会員のみなさま方におかれましては、増々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて昭和五十九年度の事業計画も順調に実施されております。

母校においては、日本で最初に開設された車体整備コースも順調に軌道に乗る発展ぶりです。本年は全国的に入学総員数が少ないのに、母校は順調に入学者数が推移し、我が母校ここにありといつたところでです。

これら母校の着実な発展は一重に学長をはじめとして、理事並びに教職員のみなさま方の並々ならぬ努力の賜物と誠に感謝に耐えません。

さて、母校設立二〇周年を二年後に控えて、今年度最重要課題として取組まねばならないのが「学

友会館設立」に向けての準備であります。これについては、役員・代議員一同全力を上げて取組む所存ですのでどうかO・B諸兄及び大学関係者のご協力をお願い致します。次に支部設立の拡大ですが、これも順調に進みこれまでに、沖繩支部、広島支部と岡山支部設立の準備委員会の発足があり、また準備段階にある、兵庫・静岡・北陸・長野・山梨等が来年度中に支部として設立されることを希望する次第です。O・B諸兄の一層のご協力をお願い致します。

前述のとおり、母校も間もなく開学二〇周年を迎えるまでに成長しました。またO・B諸兄の中にも、多数、社会的にも認められる地位につかれた方もあると思えます。どうか今後共、後輩の就職及び母校への入学希望者の推薦など

母校との結びつきを増々強固にして母校共々増々の発展を念願致します。

最後になりましたが、会報発刊にあたり、多大なご協力ご援助を

雑 感



会報第四号の発行、おめでとうございます。

既

に会員数八五〇〇名を超す大学の規模を思うとき、母校としての社会的責任の重大さを考え、今さらながら、身の引き締まる感概に浸っています。

一人、一人が色々な思い出を胸に社会へ巣立ち、夫々の分野で一杯活躍しておられるわけですが、会員諸兄が等しく感心を持ってもらえる母校の発展充実の方向について、一言触れてみたいと思えます。

本学は、来る昭和六二年、開学二十周年の年を迎えることになり

賜りました大学関係者並びにO・B諸兄に対して心より厚く御礼申し上げます。

中 本 日 本 自 動 車 短 期 大 学
学 長

中 村 清

この二十周年をエポックメイキングな年とするべく、設備、施設等、学内のあらゆる改善充実計画が目白押しに並んでいます。

オ一は、待望の総合グラウンド新設工事の完成です。

陸上競技場施設基準のオ三種を計画の基礎とした本格的なグラウンドで、今秋には完成予定です。

オ二は、昨年の「車体整備コース」に続く、新しい「電子機械コース」の開講です。

既に教授陣容を整え、目下、設備、施設の計画実現に向け、関係者は大奮闘です。来年四月からは講義が始まり、開学二十周年の六

二年三月には、カーエレクトロニクスに強い本学の卒業生のオ一陣が巣立ってゆきます。

オ三は実習教育棟の新築です。開学以来、毎年改修を重ねながら今日に至った全卒業生の思い出深い実習教育棟ですが、これを抜本的に見直し、近代的な実習教育にふさわしい最新施設とすべく計画が目下練られています。

オ四は普通教室棟の増設です。五年前、従来の一号館に代わる新一号館が新設されたのを皮切りに九号館四階、三号館各教室の改修等の教室整備を進めてきましたが、将来構想を踏まえながら、更に一棟普通教室の増築計画が考えられています。

オ五は敬愛寮の移転計画です。五十八年、木曾川畔に近代設備を誇る新学寮を建設、敬愛寮の名で親しまれてきたが、同年九月末の木曾川の氾濫で、地域一帯が大打撃を受けたため、防災上の必要から、巨大な堤防が構築されることになり、建設後わずかにして立退くことになったわけです。六三年三月末までには、本学の近くに、より充実した素晴らしい設備の寄宿舎「新敬愛寮」として生まれ変わる予定になっています。



そのほかにも、学生ホールの新築も検討されていますし、学友会館の建築もこれに続くことになるでしょう。

以上のように、二十周年を契機として、全く見違えるほどの大きな変化が期待されております。

しかし、「新しい皮袋に、新しい酒」の諺があるように、施設、設備の近代化と歩調を合わせながら、教育の内容も、又運営の管理システムも、時代にふさわしいものに整備してゆかなくてはなりません。

「温故知新」、ただ新しさだけを求めるのではなく、伝統と相互信頼に根ざした、つまり、次の世代の礎石となり得る新しさ、いつまでも新鮮さを失なわない古さ、このようなことを考え、自戒しながら近代化に取り組んで行きたいと考えている。

2級整備士合格率 研修課

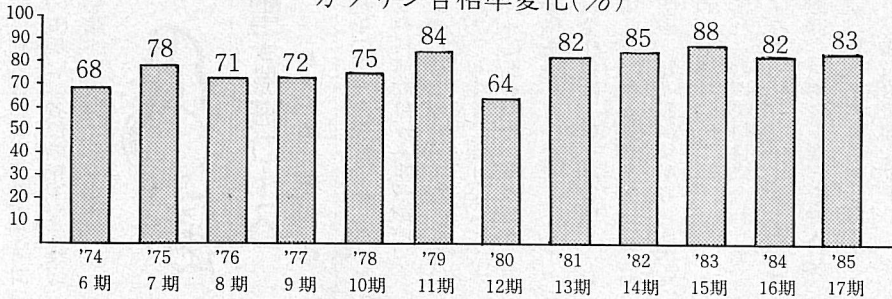
大学の正規教育を受けた後、自動車整備士の資格取得の為の実技免除講習や学科試験が毎年実施さ

れています。

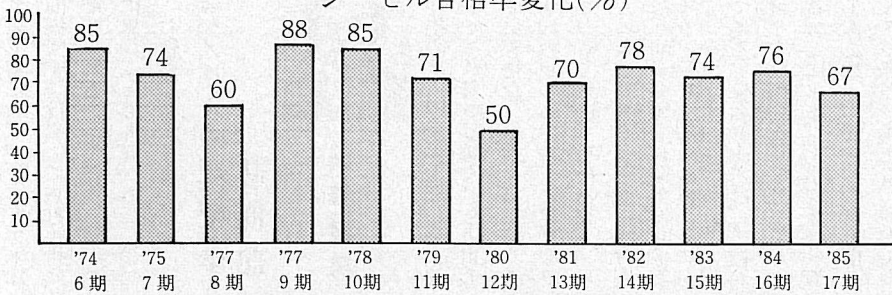
今年、3月24日(日)に認定試験へ学科試験が行なわれ、下記の成績になりました。

年	ガソリン	ジーゼル
84	85	75・5%
85	83・2%	67・2%
82・1%		

ガソリン合格率変化(%)



ジーゼル合格率変化(%)



結果は例年同様の傾向を示していますが、特にジーゼルの合格率は過去ワースト3の悪さで残念に思います。

今年を取り組みを改善し、名譽挽回の指導を致します。

尚、卒業生諸先輩より後輩へ、資格取得の為のご指導、ご援助も併せてお願い致します。

'74以降の合格者数

G	D	
253	273	'74
434	345	'75
251	202	'76
225	262	'77
378	422	'78
516	432	'79
408	320	'80
462	392	'81
412	375	'82
345	271	'83
357	324	'84
484	385	'85
4526	4023	計

キャンパス計画についてII 事務局長 杉浦 禎宣

学友会報も第四号となり、編集に携われる諸氏のご苦労に、まずもって敬意を表する次第です。

さて、昨年会報第三号の紙上で「中日本自動車短期大学グラウンド等新設工事」の計画について触れ「開発許可申請」業務着手準備中

であることをお知らせしましたので、引き続き、その後の進捗状況についても少し述べておきたいと思

います。

本学は景勝日本ライン・木曾川畔にあるわけですが、地形的には丁度分水嶺に当り、現実の姿は長良川水系に所在することになります。

そのため、開発許可には色々な問題が付随したのですが、何んとかこれをクリアして、着工にこぎつけることができました。

当初は、59、60、61の三か年計画で完工の予定でしたが、理事會から特別の理解が得られることになり、本年秋頃の完工に、大幅な計画が変更され、時期が短縮となったことは、大変嬉しいニュースです。

すでに擁壁工、敷地沿側溝工などと共に、埋立、荒造成をほぼ終り、盲暗渠工、転圧工の済み次第いよいよ仕上げの段階に入るわけ

です。

青写真どおり、直線百三十五メートル(7コース)、三百メートルトラック(6コース)を持ち、野球場、サッカー場としても使用可能な上、観戦スタンドや駐車場をも併設した待望の総合グラウンド

施設が今秋にはお目見栄することになったのです。

開学20周年の記念行事の一つにOBチーム(期別・地域別等)を軸とした各種の親睦スポーツ試合が実現することを期待して止みません。

次は学内の総合キャンパス計画についてです。

本年四月二十七日、将来計画検討委員会は、大手・大成建設の設計陣が立案した長期にわたるキャンパス整備の計画説明会を開いて新しい視点から全学的立場でキャンパスを見直す場としました。

今後も、また別の設計陣から同様の形で提案を受け、違った立場からの構想が検討されることになると思います。

いずれにしても、手戻りが無いよう、長期構想の下に、実習教育棟、一般教育棟等の新改築計画を進めなければならないわけで、62年の開学20周年を目指して早期実現に努力しているものであり、本年中にマスタープランを完成させ、個々の設計に入りたいと考えています。

母校の発展充実に、夢と誇りと期待をお寄せ頂き、関心を持って見守って下さるようお願いいたします。

共に、膨大な原資を必要とする計画の実現に、各位の絶大なご支援を懇請する次第であります。



電子機械コース

教授 福井 稔

昨年の学友会会報でお知らせしたように、本年度から電子機械コースが発足しました。実際の授業は現在の一年生が二年生になってから行われますので、今の所は、その準備を進めています。

授業科目は、電子計算機I・II 制御工学、情報処理演習、電子計測実験、電子制御実験などが設定されています。

これらの授業科目に合わせて、夏休みまでに、コンピュータ、計測機器、ロボットなどを導入し、教室(九三四教室)の改築工事をを行い、施設を整備します。

今や、社会は総エレクトロニクス化されてきました。カーエレクトロニクスはもちろん、一般業務にも広く使用されているコンピュータの扱いに至るまで、幅広い対応のできる整備士教育を目指しています。

卒業生諸兄には、すべてが未知の設備です。近くにこられた折には是非立ち寄って下さい。何かの役に立つこともあるかもしれません。お待ちしております。

アメリカの短期大学 訪問記

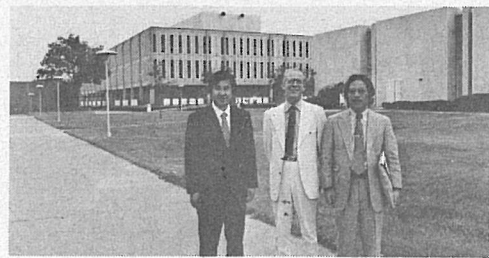


大脇 澄男

昨年の夏、田中学生会長のお共をして、米国の短期大学を訪問する機会を得た。紙面を借りて、そのうちの一つヘンリー・フォード校について記してみたい。

この大学はテトロイトの南方約十六キロ、フォード緑りの地、デアアボーン市にある公立の短期大学である。校名の由来は、当校がフォード寄贈の土地に建てられていることによる。学生総数は一万四千人を数え、短大の中でも極めて大きい部類に属する。学内を案内してくれた広報担当のフォスター氏の弁によれば、当校は数ある米国の短大の中でも、「教育機関としての質の高さ(評価の高さ)」という点で十指に入ると言うことだであった。広報担当の言うことだから多小割引いて聞いておく必要

があるが、私の印象では環境・施設・設備とも申し分のないものであった。



ヘンリーフォード校のキャンパスにて
中央が案内役のフォスター氏 1984.7.26

をみてみると、エンジン、シャシ、燃料装置、自動車電気、点火装置A/T、故障診断技術、動力測定伝達装置、溶接技術、基本工作、工業数学等がある。開設科目の点では我々の大学とほとんど変わらないが、充実した設備・機器を使って実にキメ細い指導が行われ、教育即戦力といった米国式の価値観が貫かれている。

フィリピンの自動車事情

(ジーブニー)



高橋 清

学友会の皆様、いかがお過ごしですか。毎日お仕事に精出されている事と思います。

さて、私は59年3月より今年の3月までの一年間フィリピンへ行ってきました。遊びだと良いのですが、お仕事で、その肩書も国際協力事業団、派遣専門家という、随分いかめしく、内容もフィリピンの運輸通信者、陸運局にて、車検制度実施の計画を立て、準備するというものでした。毎日暑い(年中30〜37°)には閉口しましたが生活は思っにより楽でした。ただ車が無いので、通勤はバスとジ

ープニーやタクシーを使っていたが、ジープニーはフィリピン特有の乗り物で、戦争後、残ったジープの使える所を寄せ集めて作ったのが最初だそうです。そのジープニーは時の流れと共にカラフルな造りになり、すっかりフィリピンの市民の足として定着しています。

毎日の仕事を終え、陸運局前からバスに乗り、オルテガス通りの角で降りると、そこはジープニーのたまり場になっています。



呼び込みのおじいちゃんか、「はい、あと一人、こっちこっち」などと喋ってお客を、どう見ても、

もう満員のジープニーに押し込むと、あー不思議、お客の膝と膝の間が拡がってなんとなく座われ超満員のジープニーは無事出発のはこびとなります。

時には座わっている膝と膝の間にフィリピン美人のねえちゃんの大きなおいどが無理矢理押しつけられて、そんな時には、もう天国で、いや地獄で、よだれが出る程の苦しみにじっとたえなければなりません。ねえちゃんが横にすわるだけで何千円も取られるどっかのキャバレーに比べると、これ代金はたったの1ペソ（14円）です。安いでしよう。

てな訳で、皆さんも機会があったら、一度楽しいジープニーに乗ってみませんか。

学生時代の思い出

一期生

くるまセンター橋本

橋本公起

人間とは、不思議なものである。

二年間勉強もせず、他の人よりも卒業が遅れた人間が一八〇度変わり、(ゆるまるまセンター橋本と橋本

不動産、そして三重県中古自動車販売商組合の理事を、させていただいているのだから、本当に解らないものだ、いつもそう思い苦笑いしている。大学時代、一体何をすれば良いのか解らず、取りあえず今出来るものをと、考え友達と応援団を作り、自分自身を無にする事から始まり、大学、友達そして周りの人々に迷惑をかけた

目上の方に対する考え方、仲間との連体感、そして自我の抑制、社会に出て役立つ事が多く大学時代の経験に感謝しています。卒業後異なる職種のみ国系外資会社へ就職、一年間お世話になり、仕事をしなければ喰えないと言う、人間本来の考え方を教えられ、そして当時としては、未だ知られていなかった、コンピューター会社への転職、ここでもフルコミッションと言う、数字がすべて、生活の基礎である事を体験し、仕事の怖さと喰う為の難しさと、そして、努力する事による生活の向上を教えられました。ようやくホンダ中販(本田技研の子会社)へ転職、本来の仕事に取り組み、三重県から

石川県へと転勤をくり返す事3年間、商いの面白さと、怖さを教えられ、昭和四十九年三月、二十五才で、現在の仕事を始めました。そして十一年間、種々な、壁に、当りながら、それも勉強だと、努力してまいりました。忘れてはならない事、それは、感謝の気持ち思いやり、そして努力だと考えます。だれにも、恩人と思う方が、いられると考えます。私にも、今日あるのも、私の叔母のおかげと感謝しています。神様仏様そして、周りの人々を、大切に出来ない人間に、なにが出来てあろうか、そういうのも、教えられております。母校は、自由で伸び伸びと、私を育ててくれました。

先生方、特に大塚助教には、お世話になり、又、友達付き合いを、していただけのも校風のおかげと感謝いたしております。人生すべからず挑戦である。感謝を忘れず、勇気をもって進む様、努力しようでは、ありませんか。母校の運命は、我々にあり。我々の繁栄なくして、母校の繁栄あらずとの信念を持ち、未来にむけ、現実には照らし合わせた努力と、辛く苦しい時こそ、真実を見きわめる心を持って、邁進したいものです。

在学生

最後に、私のつたない文章を載せていただく機会を与えて下さった学友会事務局、そして応援団同期で、現日本自動車短大西側先生に、心より御礼申し上げますと共に卒業生の皆様の御活躍を、お祈り申し上げます。

今回は、現在々々中の留学生12名の内、二年生5名に登場してもらい、本学に対する感想、学生生活、将来についてレポートしてみました。

台湾

張百倫

私は世界の自動車先進国である日本に来ました張百倫といます。日本に来たときは、屋根の上に大きな魚(こいのぼり)が何匹も泳いでいるのを見て驚きました。

食事も自分には合わず、また日本の寒さに慣れるまでは大変でしたが今ではすっかり慣れました。学校では専門科目、実験実習や一般教養など疑問や不明なことがあっても先生達は授業時間外でも

忙しい中勢一杯自分が理解するまで教えて下さいました。

二年間では自動車に関するそれぞれの知識の底までは学び切れな
いと思いますが、出来るだけ教わ
った事はノートや頭の中にメモを
し卒業後は海を渡り自国(台湾)
に帰りたいと思います。

中日本に入学してみても、専門の
エンジンよりも先生達の全身から
みながる日本の「みそ汁」の暖か
さが私には感じられた。

台 湾

葉 振 吉

本学に入学して早くも一年が過
ぎました。入学したての頃の辛さ
は大へんものであったことが今
でも心の中に残っています。

高校の普通科で自動車に対する
知識も少なく、日本語も上手に話
せない私に日本の学生と一緒に勉
強していただけるだろうかという不安
で一杯でしたが、幸いなことに、
各先生やクラスメートの親切、丁
寧な指導により中日本の生活にも
やっとな慣れてきました。

私はクラスメートを通して日本
人の物の考え方、つき合い方も多
少理解できる様になりました。

日本人は職場では真剣で面目

に仕事をしています。率直に言っ
て世界中で一番良く働く民族だと
思います。しかしサラリーマンと
学生を比べたら比べものにならない
程日本の学生は自由で自分勝手
であるが、会社に就職すれば百八
十度転換し一生懸命仕事をしてい
る。このことが私にとって、もっ
とも興味のある問題です。

台 湾

蕭 高 興

台湾から理想を抱いてこの自動
車短大にやって来たのは去年の事
であった。早くも一年間の歳月が
過ぎたが、この間の生活を振り返
ってみると私にとって勉強は、と
っても充実していたように思いま
す。先生方はみんな真面目で学
生達に教えてくれます。特に実習
の授業が私にとって一番大切な授
業です。一つ一つ着実なステップ
を歩んで、努力して来たように思
います。今思い出すと先生方に感
謝の気持ちでいっぱいです。

来年には、母校にそして先生方
に別れを告げなければならぬ。
何という寂しいことだろうか。

二年間の勉強が、自分の知らな
かったことを知り、それが自分を
成長させることを学んだ。

また社会に出ていろいろな事情

や仕事の役に立つ。その時学生と
して勉強した事を懐かしく思われ
る事でしょう。

タ イ

ウィチャイ・ジャウトラワル

私はタイ国から参りましたウィ
チャイと申します。日本に来てか
ら二年たちました。それにしても
まだまだ日本語が上手に話せませ
ん。一年目は埼玉県にある日本語
学校で学び、東京に居るタイの友
人と一緒に生活していました。

そして中日本自動車短期大学に
入学しました。中日本に入学した
理由は、車が好きであるというこ
とです。車に乗る事が好きである
という事ではなく、自動車に関す
る学問が好きであるということ、
保証人も入学を進めてくれたから
です。

私は現在、大学の敬愛寮に住ん
でいます。理由は折角日本に來た
んだから日本人と共同生活をする
ためです。また毎日学校まで約10
分すく古い50ccのバイクにのり
通学しています。

勉強は学校の教科書だけでなく
参考書も読んでいます。日本語の
解らないところは友人に教えても
らいます。特に文法や漢字が難か
しいです。来年三月の卒業はもう

すぐ目の前ですが就職する気はあ
りません。四年制大学へ入学して
もっと幅広い知識や技術を身に付
けるためこれからも一生懸命頑張
るつもりです。

台 湾

林 進 順

日本に来てからそろそろ三年目
になる。この間にいろいろな驚く
事があった。日本の経済、商業、
教育など目覚しく発展している。
特に工業界の発展は世界一と思わ
れる。

なぜ日本がそんなに強くやって
いけるかわかりません。ただ日本
人の敬業精神と我々の国とは全く
違う。この精神が日本の成功の橋
ではないのか?と考えています。

例えば私の国では、工場で働い
ている人達は勤務の時間がきたら
すぐに仕事をやめ家に帰って行き
ます。もし食事の時間が過ぎても
まだ仕事をやっている人がいたら、
その人をみんな馬鹿な人だとい
います。日本の場合は食事の時間が
過ぎててもまだそのまま残りの仕事
をやっています。そして仕事が終
つてから食事をする。
こんな小さなところでも良く見え
ます。

私は日本に留学している。おか

げで多くのすばらしい事を勉強し、
将来このすばらしいところを我々
の国に伝達していきたいと思っ
ております。

通 信 欄

○坂祝での学生々活を懐しく想い
出します。学生食堂での朝食(赤
だしの味、増汁の事……)いつの
日か又、訪れる機会を心待ちにし
て毎日を頑張りたい!

一期生 高橋邦嘉

○兄弟で自営業を始めて7年半に
なります。校友会も参加したいの
ですが名古屋まで行くことができ
ません。車関係に勤務している方
々御一報下さい。文通しましょう。

沖縄市山内933

沖縄市営住宅Dノ95

4期生 瑞慶山良勝

○昭和51年4月に日産自動車(株)村
山テストコース車体実験部に在席
していました。このたび日産自
動車整備専門学校に出自となり今
年4月より一期生を入れて整備士
育成の為に頑張っています。

8期生 細川俊明

59年度事業計画

事業担当 横井隆治

- 1、同総会の開催
 - 2、校友会館建設へ向けての活動開始
 - 3、組織の強化、拡充
 - (イ)事務局づくり
 - (ロ)会員相互の連帯の強化
 - (ハ)支部の設立
 - 4、会員名簿の発刊、59年度卒業生の原簿作成
 - 5、大学側との懇談会の開催
 - 6、会報の発行(更に良い物に仕立てる)
 - 7、校友会館設立準備金積立資金の運営について校友会館プロジェクトチームで研究
 - 8、海外研修の実行
 - 9、大学諸設備の改修協力
 - 10、講演会の開催
 - 11、在学生・OBに有益と思われる話題について講演会を開催
 - 12、大学祭への参加
- 今年度は積極的な形の参加を企画
画
その他
慣例化したもので特に問題のないものは従来どおり実施する。

以上の事業計画に従い、校友会活動は進められています。今年はその年の沖繩支部につき、広島支部が誕生しました。御協力いただいた方々に感謝致します。又岡山も現在準備段階にあります。

会員名簿の発刊については、20周年に向け更に確かな名簿にするべくコンピュータに登録し、住所変更等に対応出来るようになりました。又会報発送時のタックシールも出来るようになりました。校友会館建設については、資金運用も合わせ、より良い校友会館を設立すべき研究をしていくつもりです。

支部設立について

組織担当 丹地章夫

校友会支部創りは、会員相互の親睦と母校の発展を進める上に於いて大変重要なことと思えます。このことは他大学に於いて盛んに行なわれている現実を見ても理解できます。そこで本学校友会も昨年9月の沖繩支部設立を契機として、広島・岡山支部の設立を押し進めてきました。特に広島・岡山は中国地方の要として多に期待されることであり、今後の発展が鍵を握ると思われまふ。

こうした中で、今回広島県支部設立が実現できたことは、私たちにとっては大変嬉しい出来事であり心より祝い申し上げます。

昭和60年5月1日、5月の空一杯に洋々と泳ぐ鯉のぼりも祝福している様な晴天の中で、広島県支部が設立されました。組織担当幹事並びに校友会々長、関係諸兄を招待されまして、会場は、福山駅より西に徒歩で約5分、福山グラウンドホテルが会場でした。私達は先づ嬉しく感じたのは、招集された支部の会員の諸兄が一人の欠席者もなく、更に一人の遅刻者もなく全員で出迎えて頂き、大変立派に成長された姿勢とマナーの良さに心より感服致しました。会場の正面には、墨跡も鮮やかに「祝、中日本自動車短期大学、広島県支部、校友会」と赤と黒と配色され長さ12m、幅1m50cmの横旗が高らかに飾られている中で厳然として総会が施行され支部役員紹介などの諸兄も紳々としユーモアを混ぜ自己紹介された態度は、何か目を見張るものがあり母校を如に愛し私学中国本短大に勉学を求めた広島県人の熱情と意気は高く評価すべきです。決して、我田引水な表現でなくて真実そのものです。

古人の諺に「年々オタ春巡れど、人同じからず至中に偉人生ぜず」と思えば何か熱いものがこみあげて来ます。今、顧みて広島県支部の特色は同窓会の延長でない、唯々なんとなく集合したものでない、校友会とは、此の校友会とはの内容を支部会員の諸兄の全員が校友会の趣意を充分に理解し更に協調された中で先輩、同期、後輩と各部門の担当者として配置されている面もこの担当者諸兄が部門を責任と義務に依り遂行されている事です。ローマは一日にして成らず。

ものです。

広島県支部設立について

支部長 丹地善照

中日本自動車短期大学、校友会広島県支部設立に当り念頭に一言紙上をもつて、お礼申し上げます。学長、中村清先生より激励文、更らに心温まるお祝のメッセージ、恩師、大須賀和美先生は愛知県の御出身にも拘わらず、自称広島県人と記して頂いた感激は、支部設立前の昼夜の苦勞は一瞬にして晴れ、嗚呼母校には卒業後十二年も経過しているのに、今似って師弟愛は遠く離れていても師は温たかく、はぐくんでいて頂いた事を心より感謝致します。さて私は広島県の市内に私学高校の、校内のすぐ近くに、〇〇高校校友会館と華やかに浮ぼりされた文字、洋館建二階その入り口には、昭和四十年四月建立とされ同窓会一同と、銘された畳二枚分位の石に、緑濃い松も添え植えられていました事を想い出しました。校友会則の目的の一条は、校友会会員の親睦を図り、中日本自動車短期大学の発展に寄与する事を目的とする。私は此の趣意は、簡単な様で骨子に、肉付けして見ると誠に、大發展す

べき中日本自動車短大とするなれば、是非とも在って当然の事の校友会で、開校以来二十年を眼の前に置いて、全国的になくはならない組織団体であると思います。母校を振り返りただ単に相も交らぬ母校で有ってはならない。諸先輩を差し置いて、若年凡才な私を今回校友会会長、本田紳基先輩、又、組織担当諸先輩よりの、御指示推薦により広島県支部校友会が設立出来ました。省えりみて各部門の役員の先輩、同期、後輩と、云った様に配置し更に、今後きめ細やかな連絡を施行してOB諸兄の母体としての、発展を目指して

います。何卒宜ろしく惜しめない御協力御指導を頂きます様、御願います。



会員名簿のお知らせ



周年(昭和六十二年)には総合名簿として再編集し、より良いものにしていく予定です。

中日本自動車短期大学、校友会

会員名簿も昭和57年、十五期までの総合名簿が完成し、一昨年三月には十六期単期名簿が、昨年三月には十七期単期名簿が完成し総合名簿と共にOB諸兄には、先輩・後輩同期の学友との連絡等に、ご利用いただける事になりました。名簿作製委員会では、毎年より良いものにするため万全の努力を致しておりますが、現在九千名に及ぶOB諸兄の住所・勤務先等の変更には、なかなか十分な対応ができない状況にあり何かとご迷惑をかけている次第です。開学二十

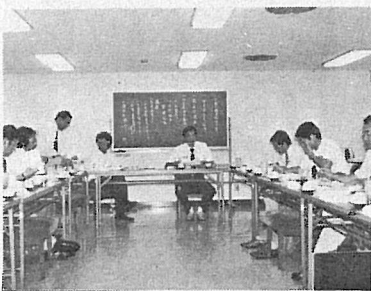
代議員総会のお知らせ

昭和六十年年度の代議員総会が左記の要領で行われます。母校創立二十周年を目標にした校友会館建設など、重要な検討事項も含まれています。同窓生諸氏のオブザーバー参加も大いに歓迎しますのでご都合の許す方々は、多数ご参加下さい。もちろん、代議員各位は是非ともご出席下さいようお願いいたします。

名 称 中日本自動車短期大学 校友会

日 時 昭和六十年八月二十五日 十三時～十五時

会 場 安保ビル会議室(名駅前) 電話(〇五二五六)一九八三



昭和59年度代議員総会

編集後記

今年国内上半期のニュースは、ソクバ万博の開催、田中元総理の復帰不可能説、悪徳商法豊田商事の摘発等々バラエティな話題が多かった。我が中日本自動車短大においてはここ数年国際化の兆しを感じられる。中華人民共和国自動車工業会社教育考察団の本学視察、マレーシアからの研修生受入れ、アメリカから講師を招いての英会話教室、本学からのアメリカ視察、学生対象のハワイ研修及び例年通り留学生受入れと数多い。

その中でも中華人民共和国からの本学視察は新聞やテレビ等で報じられ一大ニュースとして強く印象に残っている。

本学々校友会も海外支部設置案が持ち上がるなど国際化の風潮がうかがえる。

一方国内においても昨年の沖繩支部設立に続き今年も広島支部が設立され、岡山支部も設立の過程にあり、本学々校友会も着実に支部作りが進んでいる。

六十二年には本学も開学二十周年を迎え、本学の益々の発展と本学々校友会の益々の発展を願い会報後記の結びとします。

総合名簿 (一期～十七期) 二五〇〇円
十六十七期単期名簿 五〇〇円
(申込み先)
〒五〇五
岐阜県加茂郡坂祝町深萱三三〇一
中日本自動車短期大学校友会
事務局
電話(〇五七四)二六一七二二